

利 用 計 画 書

1 要望者

名 称 公立大学法人長野大学
所在地 長野県上田市下之郷 658-1

2 未利用国有地財産の表示等

所在地 長野県上田市小牧字大田切 1088-1
区 分 宅地
面 積 24,092.33 m²

3 利用用途

淡水域の生物学・生態学に関する教育研究

4 事業計画

(1) 旧中央水産研究所上田庁舎（以下「旧上田庁舎」。）に係るこれまでの経過

1938年	農林省水産講習所木崎養魚場の移転にあたり、上小漁業協同組合で誘致運動を行い、水産試験場上田分場の設置が決定
1939年	建設工事着工。長野県が試験地と建物、上田市が敷地を寄付、長野県漁業協同組合連盟が建設費の一部を負担。
1941年	水産試験場上田分場完成（敷地面積 27,120 m ² 、建物 1,683 m ² （共同実験棟 602 m ² 、温水実験棟 180 m ² ）、実験池 71 面、水面積 3,777 m ² 、水路延長 2,300m）。ウグイの人工ふ化による稚魚の餌付けに成功し、地域の水産業に貢献。
2000年	省庁統廃合に伴い、独立行政法人水産総合研究センターの組織に移行し、中央水産研究所内水面利用部として淡水魚研究を実施
2015年	水産総合研究センターを国立開発研究法人に変更
2016年	水産総合研究センターと水産大学校を統合し、国立研究開発法人水産研究・教育機構が発足。12月、同機構組織の合理化に伴い、上田庁舎の閉鎖方針が決定
2017年	11月、公立大学法人長野大学が、大学改革の一環として上田庁舎を教育研究施設として活用したい旨、上田市に打診
	12月、上田商工会議所が、上田庁舎の「大学や漁業事業者の研究教育活用」による活用を上田市に要望
2018年	長野大学と上田市で上田庁舎の活用検討協議を開始、12月に上田市が長野大学での活用方針を了承
2019年	3月、上田市議会において長野大学での活用方針について報告
	3月31日、上田庁舎閉鎖
	4月1日、長野大学が機構から旧上田庁舎を借り受け「千曲川流域環境・水産研究所（仮称）開設準備室」を設置。準備室では研究所設置準備と並行して、ウナギ資源研究など生態学・水産資源学に関する研究を実施（継続中）
2020年	3月、長野大学が関東財務局長野財務事務所に旧上田庁舎の継続使用の要望書を提出

(2) 旧上田庁舎活用方針

平成31年3月31日に閉庁した旧上田庁舎の施設・設備を取得・活用し、千曲川流域の環境・生態系の再生や地域等の生物資源、および淡水生物学・生態学の研究に係る教育研究の国際的な拠点施設「淡水生物学研究所」を整備する（令和3年4月1日開設）。

また、同研究所を本学の重要な教育研究拠点として位置づけ、将来的には大学改革の大きな柱である学部学科再編構想案（別紙資料）の理工系学部及び大学院の教育研究施設としても活用する。

なお、研究所として具体的な活用計画は、「千曲川流域環境・水産研究所（仮称）開設準備委員会」（令和元年7月設置）を設置し、検討を進めてきた。令和2年1月には関連分野の研究者を招き、淡水生物学の国際的な研究拠点形成に向けたワークショップを開催し、公立大学における地域貢献と学術振興の両立及び「共同利用・共同研究拠点」（文部科学省）の構築について議論を行った（「地方公立大学を核とした共同利用・共同研究拠点の構築に関する調査研究報告書」、2020年3月、新技術振興渡辺記念会助成事業）。

(3) 淡水生物学研究所事業構想

長野大学は、国内でも稀な豊富な河川水を取水する研究施設である旧上田庁舎を本学の「小牧キャンパス」として位置づけ、地域の自然及び生物資源等を対象とした生態学を中心とした学際領域の研究、教育及び産学官連携を行い、アジア地域との連携を深めた淡水生物学の国際的な研究拠点としての役割も果たす本学附属機関として淡水生物学研究所を設置・運営する。研究所は新たな地域のアクアイノベーションを創発する。

ア 研究及び地域貢献のための利用

(ア) 千曲川の再生への生態学を中心とした多角的な取組

- ・水環境の保全（持続可能な開発目標、SDGsに対応）
- ・つけば漁を活用したウグイ資源管理・アユ餌場再生等に向けた河川生態学研究
- ・外来種対策等の生物保全研究
- ・千曲川の遊漁振興の制度設計（流域自治体等との連携）
- ・激甚災害を緩和する氾濫原の確保とその生態系利用

(イ) 施設・設備を活用した先端研究・開発のための利用

- ・アユの種苗生産の研究開発（アユ種苗の生産コスト低減を目指す技術開発）
- ・衛星タグ（魚類回遊追跡標識）の研究・開発（下記の水産庁事業の一環）
- ・人工河川を用いた環境工学研究（国交省千曲川河川グループとの共同研究）
- ・雑食性外来魚類の環境影響に関する研究（中国との国際共同研究、申請中）
- ・水辺の昆虫・植物を対象にした進化・生態学的研究

(ウ) 外部研究機関との連携研究

- ・ウナギの資源管理（長野大学が中核となり大学・県・水産研究・教育機構からなる35研究機関の研究グループで取り組む水産庁「水産資源調査・評価推進事業（ウナギ・ユニット）」を令和元年度より実施）
- ・近畿大学水産研究所とのチョウザメの繁殖生理学的研究（令和元年度より実施）
- ・東南アジア水産資源開発センター（SEAFDEC）との研究・教育に関する連携協定（令和元年締結）に基づく教育研究連携

(エ) 生物学・生態学教育活動のための利用

- ・地域の高校生等を主たる対象とした地域の自然を生かした生物学・生態学教育への活用（生物部活動との連携等、次世代を担う若い世代の啓発）

- ・地域の児童生徒を対象とした自然学習（自然への親しみ、自然保護に関する意識、地域への誇り・愛着などの醸成）

イ 大学改革に伴う教育施設としてのキャンパス利用

淡水生物学研究所は、大学改革に伴い設置を予定している理工系学部の教職員で組織した独立した研究所として生物系学科の学部・大学院教育での利用を想定している。具体的な利用方法については、学部学科再編計画において現在検討中である。

申請 (大改正)
 廃止 (軽微な変更)

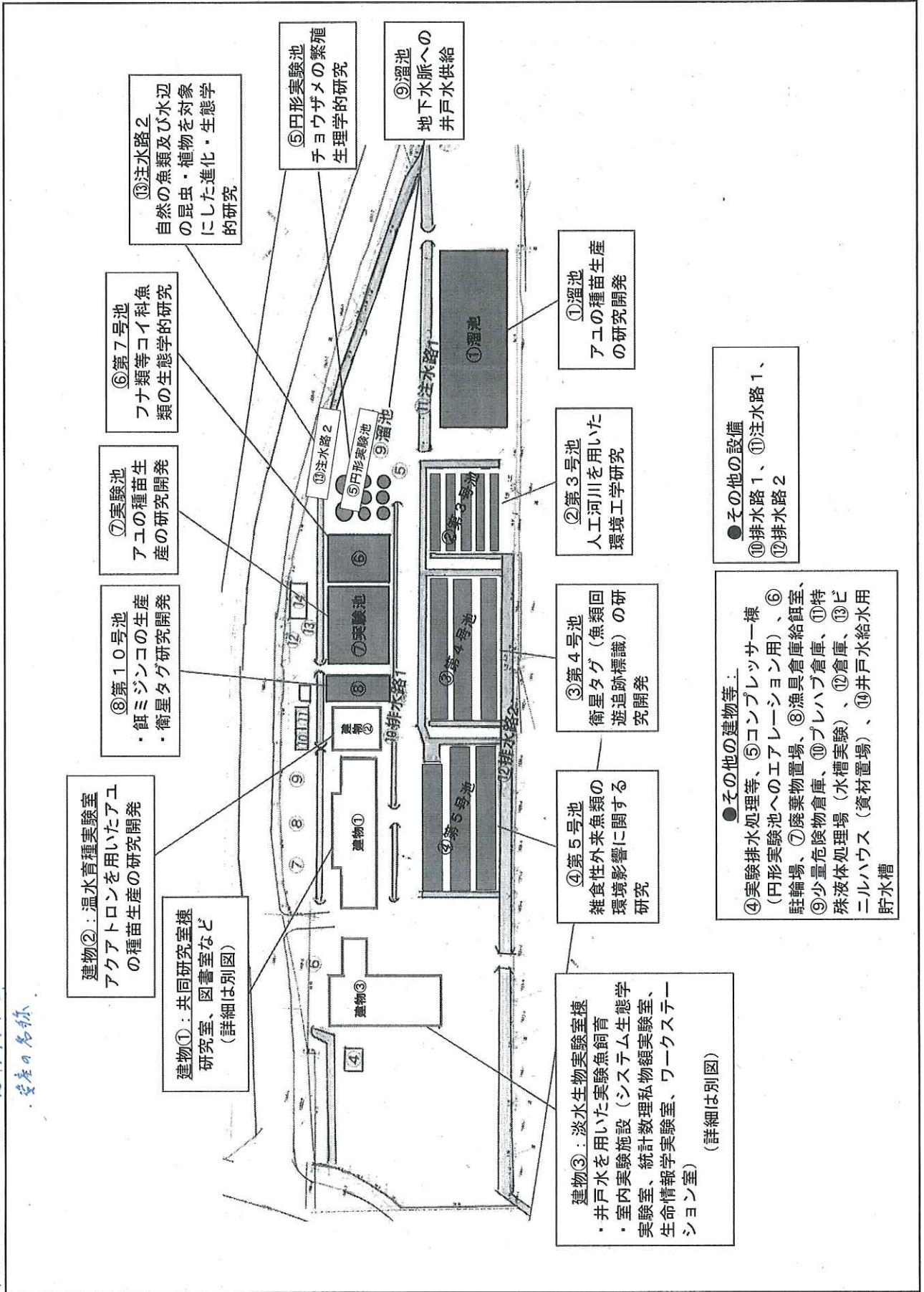
→ 使用目的

、国営研究の台帳

、10年7月1日報告

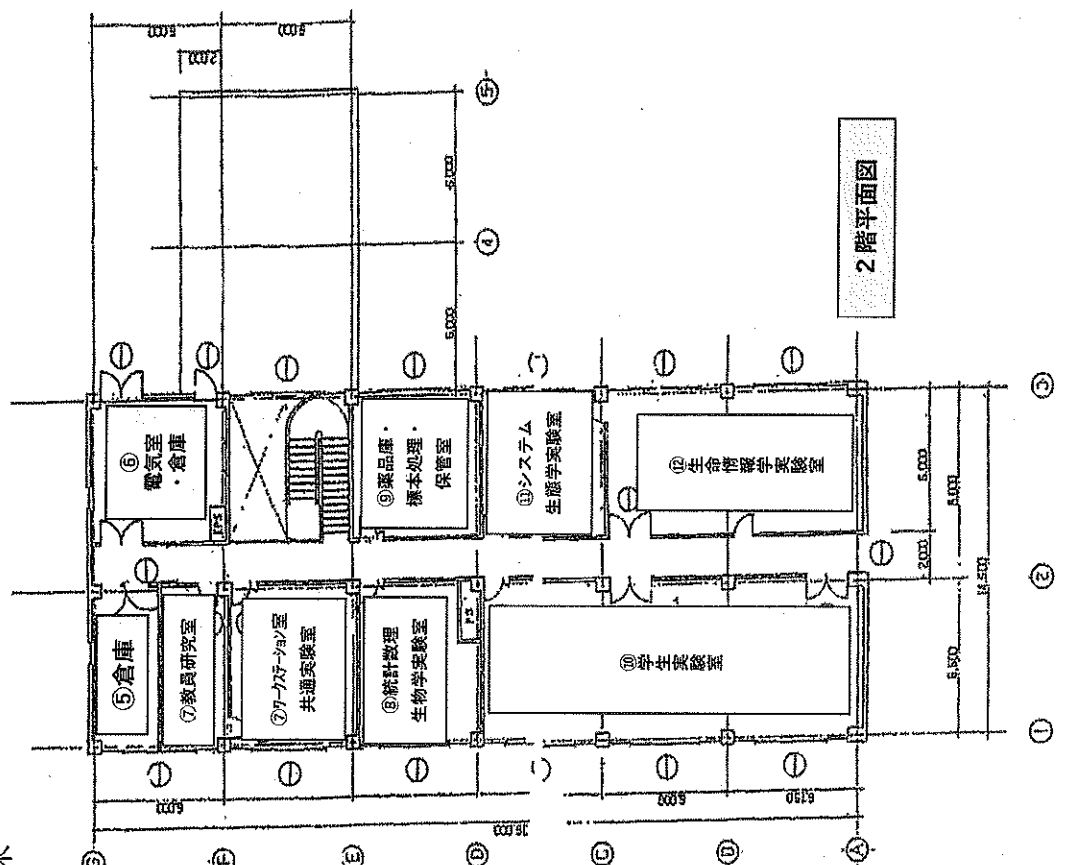
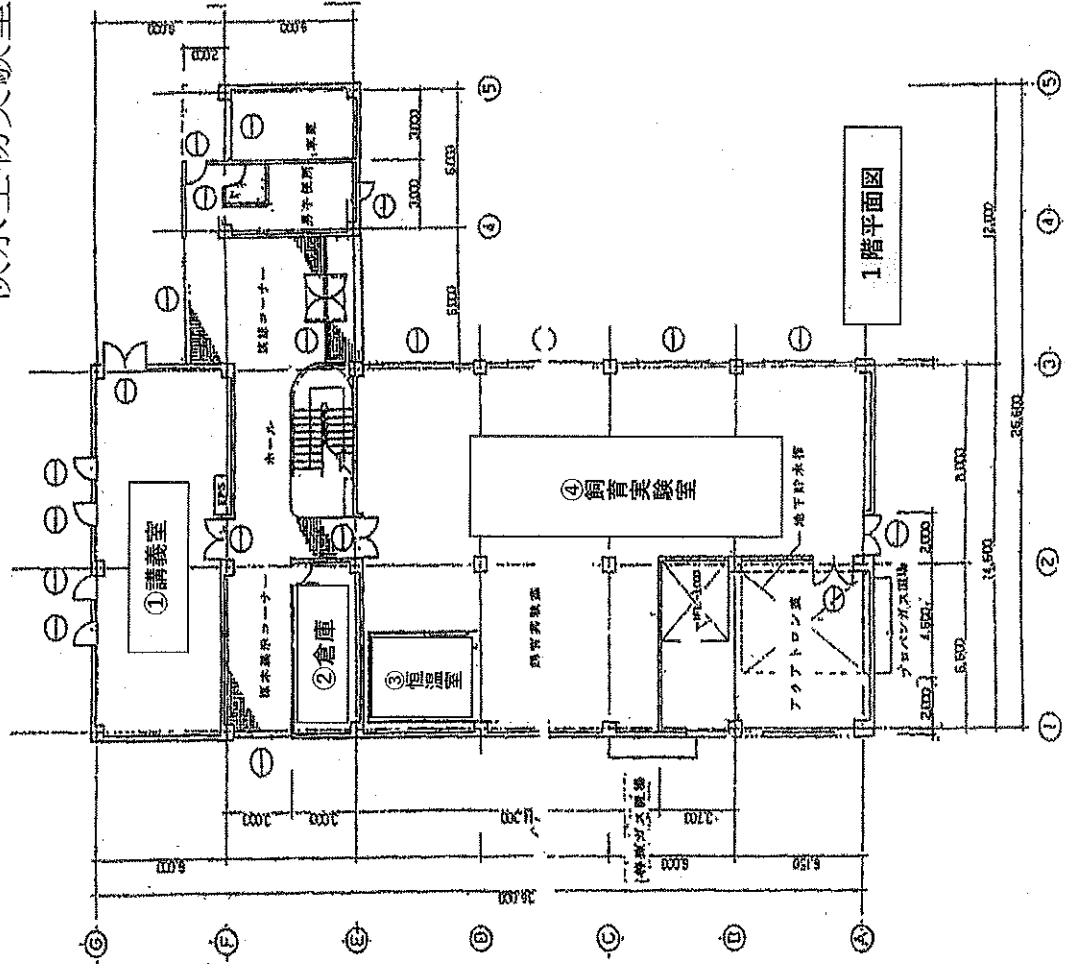
、施設の名称

【事業計画図 ①】



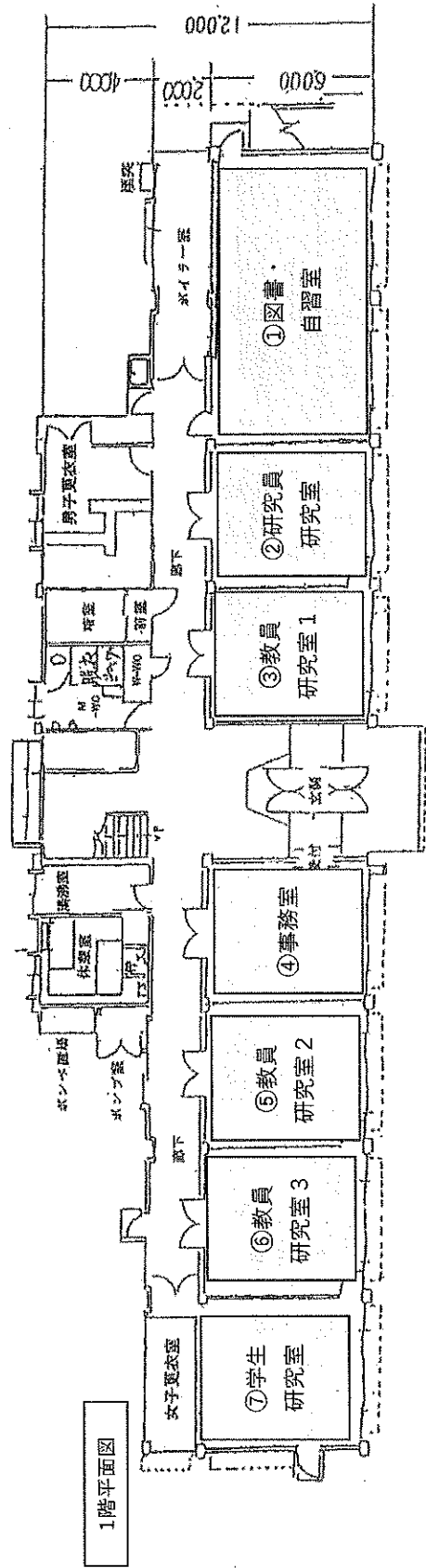
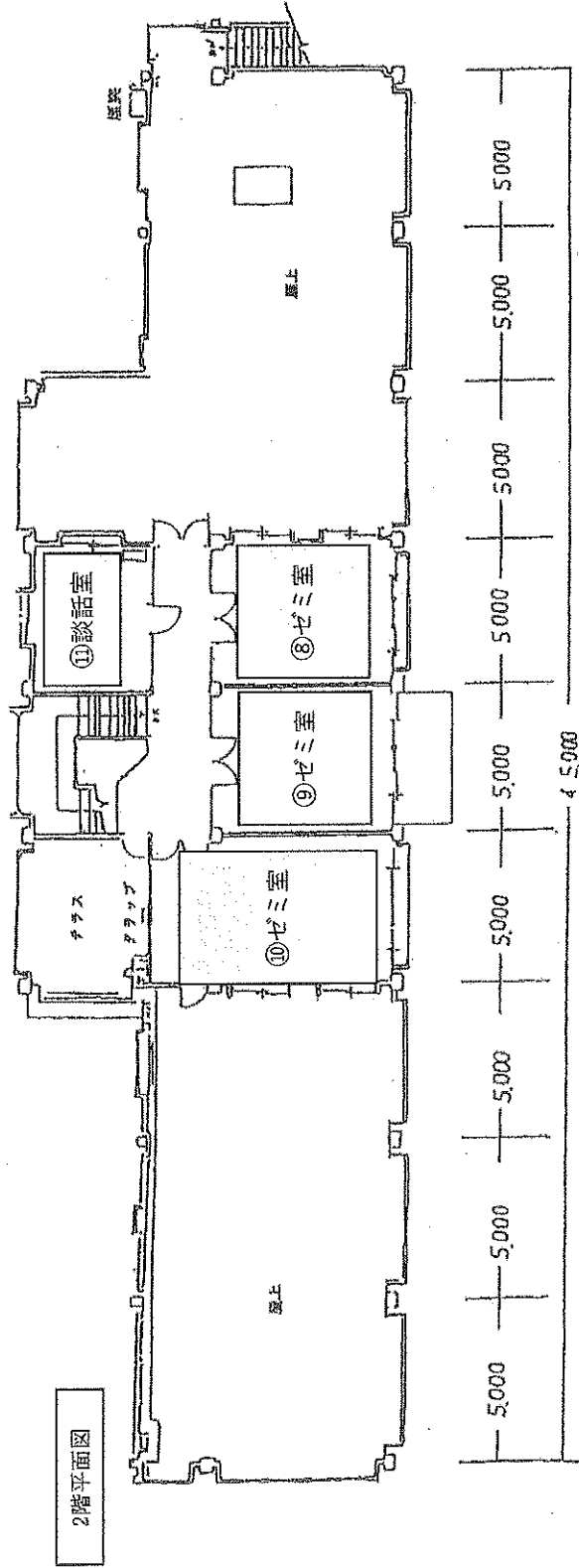
【事業計画図 ② (淡水生物実験室棟)】

淡水生物実験室棟



【事業計画図 ③ (共同研究室棟)】

共同研究室棟



淡水生物学研究所事業計画 概要

【研究概要】

地域の自然・生物資源等を対象とした生態学を中心とした学際領域の研究、教育、産官学連携を実施
アジア地域と連携を深めた国際的研究拠点

豊富な河川水を利用した飼育研究設備

様々な魚種を扱う飼育研究設備

【特色】 千曲川の豊富な河川水が利用できる全国的に稀な研究施設

千曲川再生への多角的取組

地域貢献

教育研究

- ・水環境の保全 (SDGs対応)
- ・伝統漁法つげば漁活用によるウグイ資源管理等
- ・外来種対策等の生物保全研究
- ・災害緩和のための氾濫原確保の研究 など

教育普及活動

地域貢献

- ・高校生等を対象とした地域の自然を生かした生物学・生態学教育 (生物部活動との連携、科学教育の啓発)
- ・児童生徒を対象とした自然学習 (自然への親しみ、地域への誇り、愛着などを醸成)

教育研究

地域貢献

先端研究・開発

- ・アユの種苗生産
- ・衛星タグ (魚類回遊追跡標識) の研究開発 (水産庁補助事業)
- ・人工河川による環境工学研究
- ・水辺の昆虫・植物の生態学的研究 など

教育研究

外部研究機関との連携研究

- ・ウナギの資源管理研究 (水産庁委託事業)
- ・チョウザメの繁殖生理学的研究 (近畿大学との共同研究)
- ・東南アジア水産資源開発センターとの研究・教育に関する連携協定締結

地域のアクアイノベーションを創発

- ✓ 千曲川など地域のアクア (水辺環境) を見直し、人・社会とアクアの関係をイノベーション
- ✓ 産官学連携によりアクアイノベーションを創発し、公立大学として地方創生をけん引

